



キュウトビ

vol.13

2015

学校法人九州国際大学
学園広報誌

特集 九国大の教育理念

Growing Up

一人を育てる。一から育てる。

Dream100

第6回高校生作文コンテスト 受賞者発表

Up

一人を育てる。
一から育てる。



Growing

学生一人ひとりを、全学で育てる。それが、建学以来の「塾的精神」です。

2015年7月、明治日本の産業革命遺産群のひとつとして、

世界文化遺産に登録された官営八幡製鐵所とその関連施設。

かつて、多くの勤労青年がこの地に集い、日本の近代化の一翼を担ってきました。

彼らの「もっと学びたい」という思いに応えて、働きながらでも通える夜学として

1930年にスタートしたのが「九州法学校」、九州国際大学のルーツです。

本学は社会とかけ離れた象牙の塔ではなく、地域社会とつながり、

その発展を担う人材を育てる学府であることが、建学からの使命でした。

以来85年、学生一人ひとりを全学で育てるという「塾的精神」のもと、

地域の発展に貢献する人材育成はもとより、

地域再生・活性化を促す地域コミュニティの中核としての

拠点づくりにも積極的に取り組んでいます。



古本販売によるネパール被災支援プロジェクト

商店街の活性化と被災地支援をドッキング

経済学部 西山弘泰ゼミでは地域社会貢献を目的に、八幡中央区商店街を中心に活動しています。一年間の活動内容について議論をしていた4月末に、ネパールで大地震が発生。ゼミ生の中から「商店街の活性化とネパールへの援助を結び付けられないか」というアイデアが出ました。そこで、大学に本がたくさんあることに注目。事務職員や教育職員に呼びかけて不用本の寄付をお願いし、その売上金をネパールに義援金として送ろうと考えたのです。

1カ月間の収集活動の結果、集めた約10000冊



冊をもとに、6月15日、商店街恒例のイベント「100円商店街」で古本の販売と募金活動を行いました。当日は2冊100円と5冊100円に分けて販売するなど、8600円を売り上げました。募金活動も同時に行いました。18465円が集まりました。さらに、商店街婦人部からぜんざ

いの売上金27000円の寄付をいただき、合計54065円を集めることができました。義援金は7月7日に窪田秀樹八幡東区長に直接手渡され、日本赤十字社を通してネパールに送られます。



地域

Growing Up

力

地域のために。地域とともに。コミュニティの中核として、さまざまな活動に取り組んでいます。

実践型のゼミで社会人基礎力をアップ！福島ゼミ

メディアでも紹介され、多方面から注目されるユニークな活動

国際関係学部の観光ビジネスコースでは観光やホスピタリティを学問として学ぶだけではなく、起業を視野に入れた活動にも積極的に取り組んでいます。

昨年度の福島ゼミでは、「障がい者が個人事業主として独立するための支援事業」を企画立案し、第14回大学発ベンチャービジネスプランコンテスト（九州地区大会）で優秀賞を獲得しました。また、NHK教育テレビの障がい者のための情報バラエティー番組「バリバラ」と共同で障がい者のシゴト体験を企画制作、2週にわたって全国放送



▲2014年度NHK大阪放送局教育テレビ「バリバラ」収録風景

▼2015年度NHK大阪放送局主催「バリコレ」企画に挑戦中



されるなど多方面から注目を集めています。

さらに、今年度はバリバラ主催はるな愛プロジェクト「バリコレ」のバリアフリー・ファッションショーに、香蘭ファッションデザイナー専門学校（福岡市）の学生と共同で障がいのある新郎のための婚礼衣装を制作し、出品。ファッションショー当日には九国大と

香蘭の学生が、義足のモデルとともにランウェイを歩きました。なお、ファッションショーの様子は10月4日、11日にNHK教育テレビ「バリバラ」で全国放送されます。

これらの活動にかかわる学生は全員がサービスマンとしての資格を取得し、介助士の資格を取って、さまざまな人たちとかわり合いながら社会人基礎力を向上させています。

High School

Topix

九国大付属高校OBが、北九州市観光大使に。



高校時代から声楽に打ち込み、現在は男性5人のコーラスグループLe Velvetsでテノールを担当している日野真一郎さんは、北九州市の文化奨励賞を受賞するほどの実力の持ち主。昨年は北九州市観光大使に任命され、音楽を通して北九州市のよさをアピールするPR活動に励んでいます。CDも数多くリリースし、地元若松や戸畑の市民会館でのコンサートはいつも超満員。高校時代、声楽コンクールへの挑戦や文化祭のステージで培ったチャレンジ精神で、今後はクラシックをベースにジャズや民謡なども取り入れた、総合的なエンターテインメントをめざしたいと語る日野さん。これからの活躍にも目が離せません。

地域への感謝をこめて、ラブアースクリーン運動



集めたゴミが多いほど
充実感でいっぱい！

九州国際大学付属高校では毎年ラブアースクリーン運動を実施しています。この活動は地域の高校が共同で学校の近隣

いう恒例の行事で、本校は枝光地区の清掃をしました！
ふだんから毎朝通学路のゴミ拾いをしています

はもちろん、学校の裏手の住宅街まで回って丁寧に清掃します。側溝のふたを開けて、中に詰まっている物を取り除いたり、通学路以外の地域も徹底的に清掃しました。地域がきれいになると気持ちが良いものです。

Junior High School

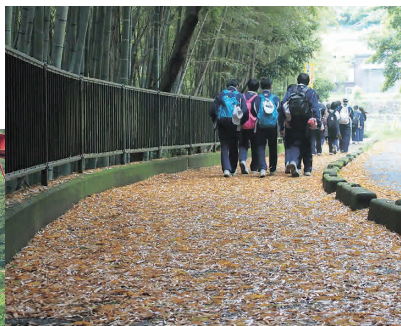
八幡東区近代化遺産ウォークに挑戦！



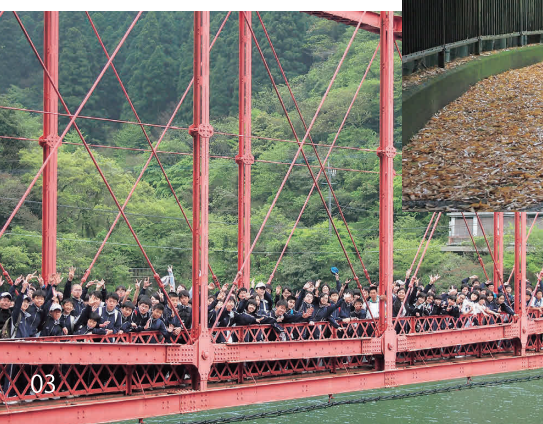
当日は前夜の雨の影響で、いつ雨が降ってもおかしくないような曇り空。歩きはじめると体が温まり汗をかくこともありましたが、止まっている時は強い風を受け震えるほどの寒さでした。しかし、雨は時々ぼつぼつ

小雨がばらつく曇り空
全員無事に20kmを完歩！

4月30日(木)、第2学年では八幡東区近代化遺産ウォークを行いました。JRスペースワールド駅を出発して、東田第一高炉跡↓旧百三十銀行八幡支店↓九州鉄道尾倉橋梁↓帆柱自転車道↓河内貯水池↓八幡製鐵所旧本事務所など、北九州の近代化に多大に貢献し、世界文化遺産に登録された近代化遺産をめぐり、約20kmを歩きました。



と降る程度で、用心のため少しルートを短くしましたが、大雨に降られることもなく全員無事に約20kmを歩くことができました。中学生にとっては決して楽な距離ではなく、途中少々弱音も聞かされたものの、歩ききった自分たちに拍手！とにかく足が痛い！というのが一番の感想かもしれませんが、地域の足跡をたどり、その歴史を肌で感じる有意義な経験となりました。来年は、もう少し長い距離を歩きます。



国際力

Growing Up

北九州から世界へ。未来へ。
異文化との交流を通して、
グローバル社会で活躍できる力を培います。

グローバルな
人材育成の場を、
全国の高校生に

早くも全国規模の大会に 第2回KIU杯高校生英語スピーチコンテスト

昨秋11月15日(土)、本学のKIUホールにて第2回KIU杯高校生英語スピーチコンテストが開催され、25名の応募者のうち、予選審査を通過した14名の高校生が本選大会に臨みました。優勝した山口怜那さんは、史上最年少でノーベル平和賞を受賞したバキスタンのマララ・ユスフザイの活動に感銘を受け、国家公務員として発展途上国の教育に貢献していきたいという決意を語ってくれました。2位の竹谷奈々未さんは、母がつくる地味なお弁当に、自分の健康を願う母親の愛情を見つけた時の感動を、3位



のアリエル・パコウスキーさんは、世界中の人々との交流には英語が欠かせないと実感したエピソードを披露。いずれも豊かな表現力と流暢な英語力で、自分の主張を力強く発表してくれました。

第1回大会では入賞者全員が女子生徒でしたが、今回は3名の男子生徒が入賞を果たし、男子生徒の躍進が光る大会でした。また、6位までの入賞者のうち優勝者を含む4名が1年生。1年生ながら臆することなく、実力を存分に発揮することができた生徒が目立ちました。

九州はもちろん、
宮城県や愛知県の
高校生も参加！

模の大会に成長しています。大会の様子は新聞やテレビニュースでも報じられ、本学が国際性豊かな若者の育成に大きく貢献していることを、広く地域社会の方々にも知っていただくことができました。また、本学の19名の学生スタッフ(1〜3年生)も大活躍。午前9時から午後7時まで、終日休憩時間もそこそこに各自の任務に専念してくれ、懇親会会場では、来賓

の方をはじめ出場者の保護者や先生方からも、学生たちの健闘を称える声が数多く聞かれました。第3回となる本年のKIU杯は、福岡県教育委員会、北九州市教育委員会、日本英語検定協会などの後援を受けて、11月14日(土)に開催されます。大会情報や過去の大会での優勝者のスピーチなど、詳細は本学のホームページをご覧ください。

上位受賞者一覧(敬称略)

- 【第1位】山口怜那(西南女学院高等学校1年/福岡県) テーマ: What One GIRL Taught Me
- 【第2位】竹谷奈々未(三池高等学校2年/福岡県) テーマ: Dear, My Dark Obento
- 【第3位】アリエル・パコウスキー(光ヶ丘高等学校2年/愛知県) テーマ: English, a Tool to Communicate across Cultures
- 【福岡県教育委員会賞】藤永怜那(西南女学院高等学校1年/福岡県) テーマ: Food Waste And Hunger
- 【北九州市教育委員会賞】河野巧一(九州国際大学付属高等学校1年/福岡県) テーマ: BINGOAL!...This Is Our Password

Junior High School

ネパールの子どもたちに 楽器を贈るプロジェクト



海を越えて、 ネパールから届いた 平和の音色

昨年、付属中学生に呼びかけ、ネパールの学校へ楽器を贈るといふプロジェクトを企画したところ、たくさんさんの楽器が集まりました。家で眠っていたリコーダー、ピアノカ、カスターネット、ハーモニカなどがネパールの

子どもたちのもとへ送られました。そして、今年の文化発表会の直前、ネパールからたくさんさんの写真が送られてきました。そこには、まさに私たちが贈った楽器を使って、地元の子どもたちが演奏している様子が写っていたのです。目を輝かせて楽しそうに楽器を吹いている姿が感動的でした。どんな気持ちでどんな

曲を演奏しているのだろうかと、ネパールからずっと遠く離れた日本から思いをめぐらせました。ネパールの大自然の中で奏でられる平和の音色。耳を澄ませば、風に乗って、海を越えて、日本まで届くような気がしました。今年も生徒に呼びかけて、楽器を贈る準備をしています。ずっと続けていけたらと思っています。



University

全学部の学生がチャレンジできる 英語スピーチ&レシテーションコンテスト

**国際問題について
理解を深め、
自分の考えを英語で
発信する力を養う**

国際関係学部では、2009年度から本学全学部の学生を対象とした英語スピーチ&レシテーション・コンテストを開催しており、今年度で7回目を迎えます。コンテストは2部構成になっており、第1部はレシテーションの部で、与えられた英文課題を暗誦し、発音、イントネーション、話し方を競い

ます。1・2年生のみが参加できる部門で、とくに1年生の授業科目「英語I」と連携しており、1年生全員に参加する機会が与えられています。第2部はスピーチの部で、テーマに沿った内容でオリジナルのスピーチ原稿を作成し、自分の思いを語ることで英語力や表現力を競います。



「Caring about Others」「Television」「Living with Water」「Loving the Earth」から1題を選んで暗誦をしました。スピーチの部では、5名の学生が「The World and I」をテーマに、世界を視野に入れた自分の将来像について熱く語ってくれました。コンテストたちは、150人もの聴衆の前で緊張しながらも堂々としたすばらしいレシテーションやスピーチを披露し、会場からは大きな拍手が送られました。



高大の垣根を超えた学びの交流 高大教育連携

今年に入って協定校は4校目に九州国際大学では、北九州・八幡を中心とする近隣地域の高等学校と連携し、多彩なふれあいと学習プログラムを提供する高大教育連携を進めています。これは、地元の高校生が地元の大学で学び、地元で就職することで、地域の活性化を促進すると同時に、大学教員や協力学生とともに学ぶという質の高い教育を提供することで、より生徒の学習意欲を高めることを目的としたもの。去年に引き続き、今年も若松高校、下関国際高校、博多高校、北九州市立高校と連携協定を締結。高校と大学の垣根を超えた学びの交流が広がっています。



地域と深くつながる本学ならではの学習プログラム

教授や学生たちによる実践的な出前授業も

協定校によって学習プログラムの内容は異なりますが、北九州市立高校では本学の教授や学生たちを派遣し、「商品開発」をテーマにした出前授業を行っています。なかでも評判だったのが、経済学部の宇都宮ゼミによる「若松潮風キャベツ」のプロモーション活動についての講義です。若松区の隠れた名産品であるキャベツをPRするゼミ活動から生まれた「若松潮風キャベツカレー」。



そのカレーがレトルト商品化されるまでの過程を学び、地域と連携して活動することの醍醐味が高校生たちにも伝わったのか、熱心に耳を傾けながら作業に取り組んでいました。今後はカレーをはじめ、さまざまな商品の開発を進めていく予定です。地域と深くつながっている本学ならではの実践的な学習プログラムを通して、地域社会に有益な人材を育成する高大教育連携の取り組みに、今後大きな期待が寄せられています。



育成

Growing Up

力

やる気を育てる。本気で鍛える。
やがては、地域の発展に貢献する
人材育成が、建学からの使命です。

公務員養成プロジェクト「公務員塾」が始動。

在学中に公務員採用試験の合格をめざす全学部の学生を対象に、受験対策総合プログラム「公務員塾」を開設しました。高い合格率を誇る公務員専門学校と連携した「公務員講座」、チューターによるきめ細やかな学習指導、基礎学力の向上を図る「大学講座」と、3つの方向からトータルにサポート。採用試験合格に向けて、学生一人ひとりを1年生から全面的にバックアップしていきます。さらに、成績上位者には公務員講座受講料の補助を行うなど、経済的支援もより充実させました。

特別育成奨学生制度「トク育」を導入。

「トク育」とは、学生一人ひとりの「夢の実現」のために、修学と学費の両面からサポートを行う本学独自の画期的な奨学生制度です。「トク育」生だけの多彩な体験型プログラムを通して、4年間しっかりと実践力を身につけさせることで、社会に通用する「できる大卒人材」を育成します。

夢に合わせて選べる
5つの修学支援
プログラム

- イントロダクションプログラム(1年のみ・全員必修)
- ①マネジメント育成プログラム ②公務員養成プログラム
- ③教員養成プログラム ④留学支援プログラム
- ⑤メディア・ICT育成プログラム

+ 学費支援(授業料40%・50%・100%免除)

Junior High School

英検に挑戦する小学生を応援！ チャレンジイングリッシュ

**5・6年から
必修になり、ますます
高まる英語への関心度。**

小学生5・6年を対象に、英検4・5級の合格をめざす英語講座「チャレンジイングリッシュ」は、例年大変な人気を呼んでいます。4回目を数える今年は45人の大所帯で、7月22日から10月3日まで全9回の授業を受けてもらいます。1時間目は、先生による英語の

授業。大きな声を張り上げて英語の発音の練習を行いました。2時間目はインターネットによる学習教材「すらら」を使ってパソコンに挑戦。イヤホンから聞こえてくる英語に対して、英語で文章をつくるという、高度な勉強に取り組みながらwhatやwhoと懸命に闘っていました。



「すらら」はパソコンがあれば家庭でも勉強することができますが、

期間中、自宅学習に励む熱心な生徒さんが30人以上もいたことに驚かされました。去年に引き続き参加するリピーターの生徒さんも増えてきています。

小学校5・6年から必修となった英語に対する関心度は、急速に高まっています。10月10日には本校で4級と5級の英検試験が実施されます。全員合格をめざして、チャレンジ小学生がんばれ！



High School

大好評の入試対策 校内大学進学説明会



**約40もの
大学や専門学校が
付属高校に集結！**

進路指導部では、生徒の進路意識を高めるためにさまざまな行事を主催しており、その一環として近隣の国公立大学をはじめ、県内の主要私立大学、関東・関西の有名私立をお招きした校内大学進学説明会を行っています。今年度は7月4日（土）、付属高校第一体育館において開催され、近年、進学希望者が多い医

療系の専門学校を含め約40校の参加をいただきました。

通常、進学説明会は各大学、もしくはイベントホールなどの会場に大学が集まって開催されるのが一般的で、大学側から高校に出向き、これだけのスケールで行われるケースはそう多くはありません。いわば、付属高校の生徒だけの貸し切り説明会。納得いくまでじっくりと話が聞けるため、保護者の方々にも大好評のオリジナル企画で



す。生徒は各大学のブースを回りながら熱心に聞き入ったり、質問したりと、この機会を十分に活用していました。



7,543の熱い感動が伝わってくる。

Dream100

第6回高校生作文コンテスト



九州国際大学では、九州・山口の高校生を対象に100文字以内で思いをつづってもらう作文コンテスト「Dream100」を実施しています。6回目を数える今年のテーマは、『あなたが伝えたい「感動」とは』。なんと例年を大幅に上回る、7,543件もの力作が集まりました。

今年で6回目を迎え、今ではすっかり恒例行事となった「Dream100作文コンテスト」。文章の要約や表現力を鍛えるために、多くの高校で学校を挙げて取り組んでいたಿದೆ。実際に書いてみるとわかるのですが、100文字という枠の中で自分の思っていることをまとめるのは至難の技。単に文章を削るだけでなく、自分が本当に伝えたいことを徹底的に追究しなければなりません。しかし、実はこの過程こそがコンテストの狙い。書くことを通じてじっくり自分と向き合う時間を持つことは、将来の夢や目標を見つけるた

め。訓練にもなります。去年に引き続き今年もテーマに「感動」を取り上げたのは、去年集まった作品では命の尊さや家族、友だちとの絆を考える深い内容の作品が多く、手に取るように感動が伝わってきたから。再び熱い感動に出会いたくて、あえて同じテーマにしましたが、応募総数7543件と例年を大幅に上回る多くの作品が集まりました。最終選考に残った作品はいずれも甲乙つけがたく、審査委員会で議論を重ねた結果、四賞の受賞作品が選ばれました。ぜひ、次代を担う高校生たちが発信する感動のメッセージをご一読ください。

書くことを通じて、自分と向き合う。高校生という多感な時期だからこそ、大切なこと。



Dream100 第6回高校生作文コンテスト

九州・山口の高校生を対象に募集している作文コンテスト。名前の「100」には、開学100周年に向け、たゆまずに歩き続けようという決意と、高校生の夢が「満点」の花になるようにという願いが込められています。九州国際大学は今後も限りない可能性を持つ若者の声に耳を傾け、夢の実現をサポートしていきます。

■主催／九州国際大学 ■共催／読売新聞西部本社
■後援／北九州市 FBS福岡放送

■選考委員

作家・北九州市立文学館名誉館長
九州国際大学客員教授

佐木 隆三氏

九州国際大学学長

北九州商工会議所 専務理事

FBS福岡放送アナウンサー

読売新聞西部本社 編集委員
九州国際大学客員教授

九州国際大学大学事務局長

堀田 泰司

羽田野 隆士氏

松吉 ゆかり氏

時枝 正信氏

井村 亮一



小さな「感動」が積み重なり、実りある人生に

仕事で忙しい母に代わって弁当を作ってくれた父、どんなに帰りが遅くなくても居間で待っている母、飼っていたハムスターを埋めた場所に咲いたヒマワリなど、感じたことを素直につづった作品が目立ちました。応募件数が多いうえ、例年以上に優秀な作品が多く選考は難航しましたが、Dream大賞には九州国際大学付属高等学校の向井友紀乃さんの作品を選びました。<席を譲る>という小さな善意から生まれた出来事を素直に記述していることが、審査員の共感を集めました。人は美しいもの、すばらしいものに出会った時に深い感銘を受け、強く心を揺り動かされます。他人から見たらそれは小さな感動かもしれませんが、小さな感動が積み重なることで、より良い、実りある人生になるような気がします。一人ひとりがそれぞれの夢に向かって歩いて行ってください。

選考委員長 佐木 隆三氏

最優秀学校賞

福岡県／折尾高等学校

優秀学校賞

福岡県／ありあけ新世高等学校

福岡県／育徳館高等学校

学校賞

【山口県】宇部フロンティア大学付属香川高等学校、山口県桜ヶ丘高等学校、聖光高等学校、田部高等学校、柳井学園高等学校

【福岡県】大牟田高等学校、沖学園高等学校、折尾愛真高等学校、九州国際大学付属高等学校、光陵高等学校、古賀成徳高等学校、小倉商業高等学校、小倉南高等学校、真風館高等学校、杉森高等学校、青豊高等学校、第一薬科大学付属高等学校、筑紫女学園高等学校、中間高等学校、直方高等学校、博多高等学校、博多女子高等学校、博多青松高等学校、ひびき高等学校、福岡海星女子学院高等学校、福岡女子商業高等学校、明治学園高等学校、八幡高等学校、若松高等学校、若松商業高等学校

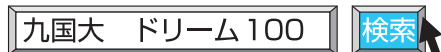
【佐賀県】唐津東高等学校、佐賀龍谷高等学校、太良高等学校

【大分県】大分東高等学校、国東高等学校、佐伯豊南高等学校、別府商業高等学校

【熊本県】大津高等学校、高森高等学校、千原台高等学校、茶洋高等学校

【鹿児島県】沖永良部高等学校、鹿児島修学館高等学校、樟南高等学校

全入選者はホームページに掲載中！



読売新聞西部本社賞

中村 柚菜さん

(福岡県／小倉商業高等学校2年)

父と母が喧嘩していた時、まだ小さい妹が紙に何かを一生懸命書いていました。妹が「渡してきてもいい？」と聞いてきたので、見ると父と母の似顔絵でした。子どもはすごいと改めて感じさせられ、涙が出そうでした。



ずいぶん前の出来事ですが、今でもはっきり覚えていて印象に残っています。文章にまとめてみると、小さな子どもの物事の考え方や捉え方は、実は私たち以上に思いやりにあふれていることを改めて実感。将来は、子供にかかわる仕事に就きたいと思っています。

Dream大賞

向井 友紀乃さん

(福岡県／九州国際大学付属高等学校2年)

電車で席を譲ったら「年寄り扱いするのか」と言われた。恥ずかしさでいっぱい二度と譲るもんかと思っていたら、妊婦さんが「私がもらってもいい？」と言ってくれた。以来、自信を持って譲れるようになった。



時には善意が伝わらないこともあります。しかし、あの時の心やさしい妊婦さんのように、必ず見てくれている人や助けてくれる人がいる。だから、正しいことなら恐れずに行動してほしいし、私自身もそういう人であり続けたいという思いを、この作品に込めました。

選考委員会特別賞

樋口 加乃子さん

(福岡県／青豊高等学校2年)

私の祖母は、認知症です。同じ事を何度も聞いてきます。私は何度でも、優しく答えます。家族で話し合ったからです。皆で怒って泣いて、皆で支える事に決まりました。祖母の笑顔を見ると家族の力は強いと感じます。



長い時間をかけて家族で話し合いながら決めたことなのでエピソードは尽きませんでしたが、いちばん強く感じたことを飾らず、そのまま書くことにしました。この作文を読んだ一人でも多くの方に、家族で支え合うことの大切さが伝わればうれしいと思っています。

FBS福岡放送賞

松下 恒輝さん

(佐賀県／佐賀龍谷高等学校2年)

学校の帰り道、小さな男の子が泣いていた。その周りに高校生が集まっていた。いじめてるのかと思うと、男の子の壊れた自転車を手がまっ黒になりながら直していた。この姿をみて僕もこんな人になりたいと思った。



あまり作文は得意ではないので、100文字にまとめるのに苦労しましたが、無駄を省き、事実をわかりやすく書くことで、読む人に思いが伝わるようにしました。まさか受賞するとは思ってなかったので、知らせを聞いた時はうれしさよりも驚きの方が大きかったです。

2013年4月、「人づくりが拓く街づくりへ」をコンセプトに、黒崎のコムシティに開設された九州国際大学 地域連携センター。地域コミュニティの中心的な存在をめざし、この2年間に行ってきたさまざまな取り組みについてお話をうかがいました。

分野を超えた交流や調査・研究の拠点としても最適な場所

九州国際大学 地域連携センター《きゅーこむ》が、JR黒崎駅横のコムシティにオープンして2年。以来、地域と連携しながら地域社会づくりに貢献するために、試行錯誤を繰り返しながらもさまざまな事業を展開してきました。ひとつは、サテライトキャンパスとしての役割です。現在は、九国大の学生を対象とした街なかでの教育や地域への情報発信基地として、また、ゼミ活動の拠点などに活用されています。ここは利便性がよく、人が集まりやすいので、地域課題に関する調査や研究の拠点としても最適な場所。今後は、九国大はもとより地域の産学官民の研究や成果発表の場とし

ても、大いに活用されることを期待しています。分野を超えて多くの人が交流することで新たな学習拠点としてのにぎわいが生まれ、その成果の積み重ねが、やがては街の再生や地域の活性化にもつながることになります。

大学が培ってきた知を、広く地域のみなさんに還元する場として

地域連携センターのもう一つの役割は、地域の「人づくり」に貢献することです。これまで九国大が培ってきた知を、行政機関や民間団体と連携しながら地域のみなさんに還元することで、地域のマンパワーをバックアップ。人的ネットワークの拠点としても活用してもらいたいと考えています。具体的な活動としては、九国大の教員が参加する穴生学舎主催の「シニアカ

レッジ」や、北九州生涯学習総合センターが主催する「市民カレッジ」での講義などが行われています。また、地域連携センターでは、生活上のいろいろなトラブルに対処するための「市民講座・市民相談」や事業経営者を対象とした「短期リーダー育成塾」など、無料や割安な受講料で受けられるオリジナル企画も開催しています。

さらに、若者ワークプラザや市民活動サポートセンターなど、コムシティに集まる11の施設が人づくり支援をめざして設立した「北九州ひとみらいプレイス」の事業にも参加。おもに若者の人材育成を目的とした活動を行っています。実務家が多い九国大ならではの教員力で、広く地域のみなさんに生涯学習の機会を提供しています。

これからの街づくりに求められるのは、自ら考えるチカラ。

かつて、ここ黒崎駅一帯は、大変なにぎわいと活気に満ちあふれた街でした。シャッター通りと化した商店街や地方都市の再生は、今や全国的課題です。しかし、その課題は行政だけの活動で解決するものではありません。これから「街づくり」は地域に住んでいる人たち、働く人たち自らがどうしたいのか、主体的になつて考えることが求められます。建学以来、全学を挙げて地域を志向した教育・研究を行ってきた九国大の地域連携センターが、その「考える」きっかけづくりの場となることを願い、これからも地域コミュニティの中心的存在として、地域再生の一翼を担えるよう活動を続けていきます。



市民講座・市民相談

受講生の声

岡本 豊子さん
八幡西区在住



今年の4月から前期の講座を受講しています。大学の先生の講義といういかにも難しそうですが、毎回テーマに沿って身近な例を挙げながら、教えてくださるのでわかりやすく。不動産や税金、相続などの知識は知っているつもりで実は知らないことがたくさんあって、まさに目からウロコ！おかげで新聞やテレビのニュースも、以前よりずっと興味を深く見るできるようになりました。受講後は、受講生どうしてお茶を飲みながら、授業の話に花を咲かせることも。後期もぜひ受講したいと思っています。

建学以来、地域とともに歩んできた 九国大だからできる人づくり、 街づくりがあります。

九州国際大学 地域連携センター長 古賀 哲矢



地域のふれあいの拠点として



読んだ本の面白さを伝えるビブリオバトルやブックリサイクル…。北九州ひとみらいプレイスなど他の団体と連携して、多彩なイベントを実施しています。今後も副都心黒崎を中心に、地域の方々との交流をさらに深めていきたいと考えています。

地域課題の研究拠点として



商店街の利用実態調査や住民の聞きとり調査など、地域の課題を解決するための研究拠点としても活用されています。大学内にもった教育・研究だけでなく、大学の外に出て地域と連携しながら地域社会に貢献するための足場づくりをめざしています。

幅広い学びの拠点として



年金や税金、不動産、相続や遺言など、日々の生活にかかわる身近な問題を取り上げた「市民講座・市民相談」を定期的に開講しています。実務家の教員による丁寧でわかりやすい講義とアドバイスが好評です。より深く学びたい方のために、専門講座も開講しています。

地域貢献活動の一環として、地域の子どもたちとふれあう「朗読会」を実施。

まずは子どもたちと打ち解けることからスタート

本学では、大学図書館と共同で、学生が主体となってさまざまな地域連携活動を行っています。今回、千代放課後児童クラブ(八幡西区)で実施した「朗読会」もそのひとつ。図書館SAの東田尚己さん(国際関係学部2年生)が中心となって、メンバーとともに企画を進めてきました。

当日は、まずは子どもたちとふれあい、打ち解けるためのレクリエーションとして、3つのアクティビティからスタート。とくに子どもたちに人気だったのが、「人間知恵の輪」です。これは、グループでランダムに手をつなぎ、手を離さずにもつれている手をほどこいて円をつくるゲームで、児童クラブの先生にも一緒に参加していただき、楽しく行うことができました。

また、同じテーマで絵を描き、グループごとのちがいをを見つけるアクティビティでは、テーマは同じなのにちがう絵になることが、子どもたちには不思議でならない様子でした。このアクティビティは他者とのちがいを受け入れる、新しい発見を感じてもらい、お互いの発想を尊重することなどを学んでもらうことを目標に取り組みでもらいました。

いずれのアクティビティも小学1年から6年の子どもたちにもわかりやすく、楽しむことができ、なおかつ学びのあるものにするために、進行にもひと工夫。タイムを競わせて「どうやったらタイムを短縮できるか」など、子どもたちに話し合いをしてもらうようにしました。タイムが短縮すると、その結果に子どもたちは喜び、その場で「振り返り」の時間を持たせることにも役立ちました。



「イメージ」を言葉で伝えることのむずかしさを実感！

「朗読会」のメンバーは詩を読み、「イメージ」を相手に伝える朗読講座を8月から毎週受講し、準備を進めました。初参加の学生や留学生もいましたが、だれもが詩の「イメージ」を言葉で伝えることのむずかしさを実感。留学生は日本語での表現に苦勞していたようです。そして、いよいよ本番です。アクティビティで仲良くなった反面、子どもたちは静かに朗読を聞いてくれるだろうか、途中で飽きてしまうのではないかと心配しましたが、みんな熱心に目と耳を向けてくれました。

十分な練習を行うことはできませんでしたが、それぞれがいろいろな役になりきり、言葉をふくらませながら自分たちの「イメージ」を伝えることができたのではないのでしょうか。なかでも、日本語、ベトナム語(留学生)、中国語(留学生)の3人のセッションは素晴らしいものでした。もっと言葉で「イメージ」がうまく伝えられるように、さらに練習を重ねていきたいと早くも次回の開催に意欲的な学生たちもいました。

最初は緊張や不安でいっぱいな様子でしたが、レクリエーションを通して、緊張を吹き飛ばすほどの元気と勇気を子どもたちからももらいました。そのおかげで練習したことを発揮することができ、朗読講座の先生からは、「本番が一番よかった」と褒めていただきました。今回の企画を一度限りで終わらせるのではなく、これからも続けていきたいと語る、今後の彼らの活躍にご期待ください。

千代放課後児童クラブの先生方、準備に携わった方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



第3回夏祭り「KIU★七夕祭り」を開催

ステージやイベント企画で盛り上がった熱い2時間！

今年で3回目を数える夏祭り、サブタイトルは「KIU★七夕祭り」。初めて学生自治会が主催となり7月29日(水)15時～17時までの2時間、KIUホール前のステージにおいて行いました。ブルコギ・たこ焼き・フライドポテト・ドリンク・冷やしパイン・ミスタードーナツなどの模擬店に加え、ステージ企画ではダンスサークル「FLAP」、アカペラサークル「Joy harmony」による

パフォーマンス、イベント企画ではTVで話題のヌルヌル相撲を行いました。本学の学生や地域の方々を含めて約200名の参加があり、当日は晴天にも恵まれ盛大な夏祭りとなりました。自治会では、気持ちをひとつにするために全員がスタッフTシャツを着用。開催日まで準備に追われましたが、その苦勞の甲斐があり楽しいイベントにすることができました。

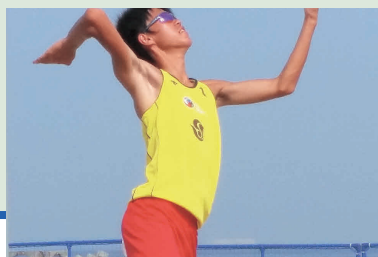
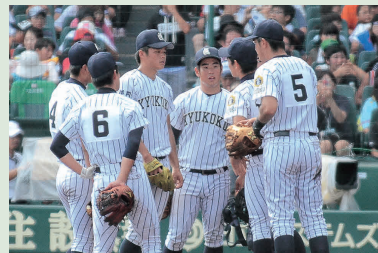
High School

県大会2連覇で甲子園大会出場。惜しくもベスト8で敗退。

付属高校の野球部が並み居る強豪校との激戦を勝ち抜き、福岡県勢としては'98、'99の東福岡高校以来、16年ぶりに夏の甲子園の県予選を2連覇して甲子園大会へと駒を進めました。強豪校が多い福岡県において本校が勝ち進むことができたのは、応援してくださったみなさまのおかげです。野球部は県内135校の想いを背負って、福岡県の代表として、選手とスタンドでサポートするメンバー、応援団がひとつになって全力でプレーしました。

8月7日初戦は、鳴門高校(徳島)を8-2で破り、8月13日2回戦ではあの大阪桐蔭を下して注目されていた大阪偕成高校(大阪)に、10-9の劇的なサヨナラ勝ちで勝利。3回戦では5年連続の作新学院(栃木)を2-0の投手戦で下してベスト8に進出しました。

17日の準々決勝では、大会前から評判の高かった早稲田実業高校(西東京)との対戦でした。1-8で敗れはしましたが、それでも夏の甲子園出場6回目で過去最高の成績を上げて、全国にその名を轟かせました。選手たちは胸を張って甲子園をあとにしました。応援ならびに募金にご協力いただき、ありがとうございました。



第14回全日本ビーチバレー ジュニア選手権大会出場ベスト8に輝く！

7月上旬に行橋市長井浜で「福岡県ビーチバレーボールジュニア選手権大会」が開催されました。この大会で付属高校バレー部の男子が1位と3位、女子が3位に入賞！3チームともに九州大会(鹿児島)に進出、1位のペアは全国大会(大阪)にも出場することになりました。

8月8日から11日にかけて大阪府の阪南市で行われた全国大会に、3年生の北川君と村山君が出場しました。

1回戦 逆井・齋藤ペア(埼玉)に2-0で勝利

2回戦 加藤・竹村ペア(静岡)に2-0で勝利

3回戦 黒川・前田ペア(広島)に2-0で勝利

4回戦 瀧川・関東ペア(兵庫)に0-2で敗退

今大会で優勝した瀧川・関東ペアに惜しくも4回戦で敗退してしまいましたが、ベスト8という輝かしい成績を残しました。そして北川君は有望優秀選手賞を受賞しました。

Junior High School

3年生の「北九ウォーク」。 25kmの長崎街道を過去最速で完歩。

心身の鍛錬もかねて地元北九州を歩く「北九ウォーク」。3年生は4月30日(木)、長崎街道ウォークにチャレンジしました。心配された天候も、昼間少し雨が降った程度で、大きな影響はありませんでした。今回歩く距離は25km！木屋瀬から勝山公園まで歩きます。経験したことがない未知の距離に、不安を隠せない生徒もちらほら。9時に須賀公園を出発しました。道中のひと場面。ある生徒が歩きながら「公立はいいよなー」とボンソツつぶやきました。先生が「なんで？」と聞き返すと、「公立は25kmも歩かないでしょ？」と。確かに中学校で25kmも歩く学校は聞いたことがありません。しかし、だからこそ貴重な経験ができていないのかと伝えましたが、生徒は「…」。これが正直な感想でしょう。それでも、この生徒はその後、黙々と歩き続けていました。

今年の3年生は最後までスピードが落ちず、全体的に早くゴールしました。先頭の到着時刻は13時30分！(到着想定時刻16時)過去最速です。みなさん、よく頑張りましたね。



先生方も大奮闘！ 学習クイズクラスマッチ。

7月8日・10日に付属中学校では「学習クイズクラスマッチ」が行われました。第2回目となる今回は、生徒会が中心となってアイデアを出し、係を動かして積極的に取り組みました。一次大会は各教室で開催。教室に備え付けられた電子黒板に動画が映し出されると、生徒たちは大爆笑。そこには日頃の真面目な様子からは想像できないほどお茶目な、カツラや仮面で変装した先生の姿が！おまけ画像では先生方の学生時代の写真も公開され、またまた大爆笑でした。



盛り上がったところでペーパー問題が開始されました。毎日の宿題が出題範囲で、「やった分だけクラスの得点になる」という一次大会は、どのクラスも一致団結して頑張っていました。決勝大会は体育館に集まって3種類のクイズにクラス対抗で挑戦しました。テレビ番組さながらの出題者の司会ぶりはお見事！先生方はここでも大変装いで会場を盛り上げてくださいました。優勝は3年A組、さすが3年生。この学習クイズクラスマッチをきっかけにして、日々の学習にもその想いをつなげていけたらと思います。

University

◎ウエイトリフティング部

第61回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会
 62kg **準優勝** 平井隼人
 85kg **準優勝** 黒木賢悟
 105kg **準優勝** 新里建次
 +105kg **優勝** 田中太朗

第27回全日本女子学生ウエイトリフティング選手権大会
 48kg **優勝** 足立咲輝

第12回全日本学生ウエイトリフティング選抜大会
 男子56kg **優勝** 井出真輝
 男子62kg **優勝** 平井隼人
 男子69kg **準優勝** 本田大智
 男子+105kg **優勝** 田中太朗

第54回西日本学生ウエイトリフティング選手権大会
男子団体優勝



◎バドミントン部

第62回九州総合バドミントン選手権大会
 兼全日本総合バドミントン選手権大会九州地区選考会
 男子シングルス **優勝** 森田浩平
 (全日本総合バドミントン選手権大会出場)
 女子ダブルス **ベスト4** 中村麻裕、中野愛美

第55回九州学生リーグ戦大会
 〈男子〉団体 **優勝(8連覇)**
MVP 森田浩平



◎剣道部

第62回全日本学生剣道東西対抗試合出場
 福岡太一



◎トライアスロン

第5回日本U23トライアスロン選手権2015酒田大会
第3位 蒔田亜伽音

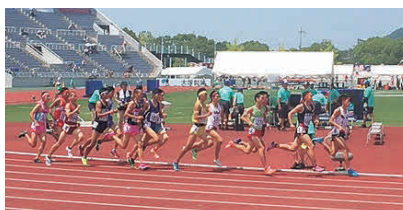
平成27年度アジアトライアスロンU23選手権大会
第3位 蒔田亜伽音



第65回平成27年度九州地区大学体育大会
 硬式野球部 **第3位**
 バスケットボール部 **第3位**

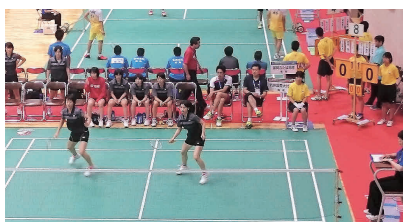
High School

■平成27年度 全国高校総体



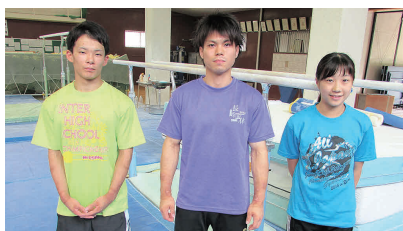
◎陸上部

第68回 全国高校総体陸上競技大会
 100m 飯野明彦 予選5位(10.83)
 1500m 五郎丸真翔 予選12位(4.05.29)
 1500m 一瀬泰大 予選14位(4.12.06)
 100mH 大久保光 予選4位(14.58)
 100mH 藤原美咲 予選5位(14.80)



◎バドミントン部

第66回 全国高校総体バドミントン競技大会
 学校対抗戦 男子/出場 女子/ベスト8
 個人戦ダブルス
 男子/藤田将徳・川口寛祐 **ベスト32**
 女子/石橋舞・松山奈未 **3位**
 女子/重田美空・田島優乃華 2回戦敗退
 個人戦シングルス
 男子/藤田将徳 2回戦敗退 川口寛祐 2回戦敗退
 女子/松山奈未 2回戦敗退 松本茜 出場



◎体操部

第68回 全国高校総体体操大会
 男子個人総合 森雄登 77位/272人中
 山崎優太 121位/272人中
 女子個人総合 西原智香 97位/269人中
 男子種目別決勝 跳馬 森雄登 **6位**



◎ウエイトリフティング部

平成27年度 全国高等学校総合体育大会
 ウエイトリフティング競技大会
 53kg級 西浩生 9位
 62kg級 佐野大河 46位

第17回全国高等学校女子ウエイトリフティング競技
 選手権大会
 69kg級 戸田妃乃子 **1位**

◎バレーボール部

第14回全日本ビーチバレージュニア男子選手権大会
 北川綾哉・村山和輝 **ペア ベスト8**
 (詳細は13p)

◎野球部

第97回全国高校野球選手権大会
ベスト8
 (詳細は13p)

Junior High School

バドミントン部

今年も中体連の夏の大会では、熱い戦いが繰り返されました。特に今年は男女共に全国大会へ！という気持ちが強く、叱咤激励を受けながら大会に臨みました。九州大会では接戦を勝ち抜き、女子は優勝を決め、男子は全国大会への切符が懸かった3位決定戦へと進みました。部員も保護者も一致団結して応援し、見事全国大会へ。男女共に全国大会へ出場するのは5年ぶりです。個人戦でも男女共にシングルスで全国大会へ進み、着実に目標へと距離を縮めていきました。どの試合もプレッシャーのかかるもので、選手は緊張と戦いながらも、十分に活躍することができました。今回、男子も女子も素晴らしい結果を残してくれました。特に個人戦女子シングルスでは第3位と、初の快挙を成し遂げてくれました。1・2年生は先輩の背中を見て、どんどん成長中です。来年もぜひ活躍して、嬉しい報告を期待したいです。

<第44回 九州中学校バドミントン大会>
 8月5日～7日

男子団体 **第3位**

霧野嵩翔(3年)・安谷屋千寿(3年)・石橋陸(3年)・野中慎太郎(3年)・山口宗真(2年)・吉松基(2年)・濱原和騎(1年)

女子団体 **優勝**

小西春七(3年)・濱原楓和(3年)・田代さやか(3年)・渡邊亜矢花(3年)・田島珠姫(2年)・中村麻誉(2年)・本田彩香(1年)



男子シングルス **準優勝**

石橋陸(3年)

女子シングルス **優勝**

小西春七(3年)



<第45回 全国中学校バドミントン大会>
 8月20～23日

男子団体 **ベスト16**

女子団体 **ベスト16**

男子シングルス **ベスト16** 石橋陸(3年)

女子シングルス **第3位** 小西春七(3年)



本や音楽、恩師など、先生の人生の転機となった出会いを教えてくださいました。



トロンボーン YAMAHA 製



九州国際大学 吹奏楽部顧問

井端 豊実

昭和49年より北九州の公立中学・高校で教鞭をとりながら、吹奏楽の普及と発展に尽力し、九州吹奏楽連盟、福岡県吹奏楽連盟、北九州吹奏楽連盟の理事長などの要職を歴任。長年にわたる実績が認められ、2013年福岡県地域文化功労者表彰・2014年文部科学大臣より地域文化功労者表彰を受ける。プライベートでは意外にも演歌が好きで、こぶしの効いたクラシックを披露することも。

両親への感謝と忸怩たる思い。その葛藤が、音楽教師としての原点となった。

私は兵庫県但馬地方の寒村で生まれ育ちました。高校時代は吹奏楽部に所属していたものの、その演奏技術は趣味の領域に過ぎず、およそ芸術とはほど遠いものでした。ところが、高校3年の時に出席した音大の講習会でカルチャーショックを受け、猛勉強の末、岡山県の作陽音楽大学(現・くらしき作陽大学)に入学。吹奏楽のパートでトロンボーンを担当することになりました。その時に両親が買ってくれたのが、このYAMAHA製のトロンボーンです。初心者向けの廉価なものですが、決して裕福でなかったわが家にとつては大変な出費でした。にもかかわらず、卒業までそのケースを開くことはありませんでした。両親には申し訳ないと思いつつも、幼い頃から英才教育を受け、高価なマイ楽器を持っている同期生の手前、ただただ恥ずかしかつたのです。しかし、この経験こそが私の人生の原点となりました。

ひたすら練習を続けることで必ずみんなに追いつき、追い越そうと。そして、貧富の差や才能のあるなしにかかわらず、すべての子どもたちに音楽の楽しさを伝えられる教師になりたい。以来、音楽とともに歩み続けて43年。その間、いくつも楽器を新調しましたが、どうしても手放せなかったのが、このトロンボーン。ボディはすっかり輝きを失ってしまいましたが、両親への思いは年を経るごとに増すばかりです。

寄付金のお願い

現在、九州国際大学では、「教育研究用施設設備の拡充」と「教育環境整備」を目的に寄付金の募集を行っております。

具体的には、校舎の耐震工事や空調機器の更新、グラウンド等校地の整備、教育情報システムの更新・整備などに順次充当していく予定です。

平成27年7月末現在、総額20,985,950円のご浄財を頂戴いたしておりますが、より安定した財政基盤確立のためには、皆様方の更なるご支援が必要となります。

つきましては、寄付金の趣旨にご賛同いただき、皆様方の温かいご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。(寄付金目標額1億円、平成30年3月まで)

なお、寄付金募集に関する問い合わせや手続確認、用紙請求等につきましては、下記の部署までご連絡ください。

連絡先

〒805-8513 北九州市八幡東区平野二丁目5番1号 学校法人九州国際大学 法人事務局寄付金担当 松尾史雄
TEL. 093-671-9034 FAX. 093-671-9032 E-mail. kifu@kiu.ac.jp
本学HPの寄付金情報 <http://www.kiu.ac.jp/kifu/>

学校法人 九州国際大学 平成26年度 決算状況

平成26年度消費収支決算は、2億4,873万円の消費支出超過となりました。ただし、帰属収支差額（基本金組入前の収支差額）は、1億477万円の収入超過となっております。帰属収入は、38億1,247万円となり、前年度と比較して1億8,620万円減少しました。一時的な収入である退職金財団交付金及び学生生徒納付金が減少したことが主な要因です。消費支出に関して、一般経費（教育研究経費・管理経費等）は前年度に比べ1億4,266万円減少しました。これは、平成25年度に実施した高等学校旧校舎等の解体費、校舎等の不動産処分差額及び償却済資産にかかる減価償却額等、大規模事業計画に基づく臨時的な支出の差異によるものです。その他の経費については、電気料金の値上げ等によるやむを得ない経費の増加はあるものの、予算編成方針に沿った経費抑制を継続的に進めています。人件費については、退職金及び退職給与引当金繰入額を除く人件費本体（役員報酬含む）は、2,938万円増加しました。支出の大部分を占める人件費に関しては、総額管理を行うとともに人員構成の適正化を検討し、抑制を図っていきます。

なお、平成27年3月末現在の次年度繰越支払資金は、27億12万円、前年度末より1億5,023万円増加しました。「退職給与引当特定資産」は、9億5,976万円、学校法人会計基準に基づき、当期末退職給与引当金計上額の100%を積み立てた金額となっております。「減価償却引当特定資産」は、13億8,271万円となり、有価証券売却益を含み、前年度末より5,295万円増加しました。

貸借対照表

(平成27年3月31日現在)

(単位:千円)

科目	資産の部			負債の部			
	平成26年度	平成25年度	増減	平成26年度	平成25年度	増減	
固定資産	17,097,220	17,069,315	27,905	固定負債	1,840,476	1,960,139	△ 119,663
有形固定資産	14,601,335	14,713,144	99,860	長期借入金	879,930	985,470	△ 105,540
土地	4,912,722	4,912,722	0	退職給与引当金	959,767	972,822	△ 13,055
建物	6,907,440	6,973,323	△ 65,883	長期未払金	779	1,847	△ 1,068
構築物	522,626	555,298	△ 32,672	流動負債	649,741	638,833	10,908
教育研究用機器備品	409,532	425,765	△ 16,233	短期借入金	105,540	105,540	0
その他の機器備品	43,089	50,187	△ 7,098	短期未払金	35,169	38,490	△ 3,321
図書	1,799,367	1,788,463	10,904	前受金	355,526	373,190	△ 17,664
車輛	6,559	7,386	△ 827	修学・研修旅行費預り金	69,822	65,742	4,080
その他の固定資産	2,495,885	2,356,171	139,714	預り金	83,684	55,871	27,813
ソフトウェア	128	358	△ 230	負債の部合計	2,490,217	2,598,972	△ 108,755
電話加入権	3,202	3,202	0	基本金の部			
敷金	14,690	14,450	240	第1号基本金(施設・設備取得)	22,633,366	22,301,054	332,312
有価証券	100,000	0	100,000	第4号基本金(運転資金)	397,000	397,000	0
長期貸付金	568	760	△ 192	基本金の部合計	23,030,366	22,698,054	332,312
退職給与引当特定資産	959,767	972,823	△ 13,056	消費収支差額の部			
減価償却引当特定資産	1,382,715	1,329,763	52,952	翌年度繰越消費支出超過額	5,479,358	5,251,818	227,540
預託金	34,815	34,815	0	消費収支差額の部合計	△ 5,479,358	△ 5,251,818	△ 227,540
流動資産	2,944,005	2,975,893	△ 31,888	負債の部基本金の部及び消費収支差額の部合計	20,041,225	20,045,208	△ 3,983
現金預金	2,700,129	2,549,893	150,236				
未収入金	170,387	267,725	△ 97,338				
貯蔵品	65	159	△ 94				
短期貸付金	1,023	798	225				
修学・研修旅行費預り資産	69,388	65,320	4,068				
前払金	2,682	3,497	△ 815				
立替金	0	608	△ 608				
仮払金	331	87,893	△ 87,562				
資産の部合計	20,041,225	20,045,208	△ 3,983				

- 校舎・寮・体育館等の建物及び建物付属設備(空調等)の額。
- 教育研究のために使用される機械設備の額。
- 教育研究目的以外の機械設備の額。
- 退職金の支払いのため、将来の支出に備えて留保した資金の額。
- 老朽施設の更新や機器備品の買換え及び拡充を目的として留保した資金の額。
- 現金及びすぐに引き出せる預貯金の額。
- 決算日(3月31日)における未収入額。
- 切手、はがき、図書カード等の在庫。

- 返済期限が1年以上の借入金。
- 当該年度末に教職員全員が退職した場合に支払われる退職金の見積額。
- 返済期限が1年以内の借入金。
- 翌年度に入学する学生生徒等から受入れた授業料・入学金等。
- 財産的な基礎を確保する額のこと。本学が安定的かつ持続的に経営していくために必要な額。
- 資産から負債・基本金を差し引いた額。プラスは累積黒字、マイナスは累積赤字を示す。

【引当特定資産】

施設の増設や改築、機器備品その他の設備の拡充や買い替え、退職金の支払いなど、将来の特定の支出に備えるために資金を留保した場合に設ける勘定科目です。このような資金留保は、経営方針に基づく長期的な資金計画によって実行されます。

【現金預金】

現金、銀行の各種預金、郵便貯金などです。「現金預金」の額は、資金収支計算書の「次年度繰越支払資金」と一致します。

【借入金】

長期借入金は、返済期限が年度末後1年をこえて到来する借入金で、「固定負債」に計上します。短期借入金は、返済期限が年度末後1年以内に到来する借入金で、「流動負債」に計上します。

【預り金】

給料・報酬などにかかる源泉所得税、住民税など学校法人の帰属収入にならない、他に支払うための一時的な金銭の受入額をいいます。

【消費収支差額】

当該年度以前における各年度の消費収入から消費支出を差し引いた差額の累計額です。消費収支計算書において、消費収入のほうが消費支出より多い場合その差額を「消費収入超過額」といい、逆の場合は「消費支出超過額」といいます。



【語句説明】：貸借対照表に表れる主な科目

【有価証券】

国債・地方債・社債・金融債・株式などがあり、会計年度末後1年を超えて保有する目的のものは「その他の固定資産」に計上します。一時的(短期的)な保有を目的とするものは、「流動資産」に計上します。

消費収支関係財務比率

(過去4年:平成23年度~平成26年度)

比率	算式	H23	H24	H25	H26	評価
1 人件費比率	人件費 / 帰属収入	62.1%	60.4%	58.1%	58.1%	▼
2 人件費依存率	人件費 / 学生生徒等納付金	100.2%	98.5%	93.5%	92.2%	▼
3 教育研究経費比率	教育研究経費 / 帰属収入	29.6%	28.3%	28.7%	29.1%	△
4 管理経費比率	管理経費 / 帰属収入	10.3%	10.0%	11.8%	9.6%	▼
5 借入金等利息比率	借入金等利息 / 帰属収入	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	▼
6 消費支出比率	消費支出 / 帰属収入	103.1%	99.1%	105.7%	97.3%	▼
7 消費収支比率	消費支出 / 消費収入	109.7%	113.4%	107.5%	107.2%	▼
8 学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 帰属収入	62.0%	61.3%	62.1%	63.0%	—
9 寄付金比率	寄付金 / 帰属収入	0.2%	0.4%	0.3%	0.6%	△
10 補助金比率	補助金 / 帰属収入	25.0%	25.1%	24.7%	26.4%	△
11 基本金組入率	基本金組入額 / 帰属収入	6.0%	12.7%	1.7%	9.3%	△
12 減価償却費比率	減価償却額 / 消費支出	10.9%	11.0%	10.0%	9.8%	—

貸借対照表関係財務比率

(過去4年:平成23年度~平成26年度)

比率	算式	H23	H24	H25	H26	評価
1 固定資産構成比率	固定資産 / 総資産	86.7%	87.5%	85.2%	85.3%	▼
2 流動資産構成比率	流動資産 / 総資産	13.3%	12.5%	14.8%	14.7%	△
3 固定負債構成比率	固定負債 / 総資金	7.4%	6.9%	9.8%	9.2%	▼
4 流動負債構成比率	流動負債 / 総資金	3.2%	4.9%	3.2%	3.2%	▼
5 自己資金構成比率	自己資金 / 総資金	89.4%	88.2%	87.0%	87.6%	△
6 消費収支差額構成比率	消費収支差額 / 総資金	△ 23.7%	△ 25.7%	△ 26.2%	△ 27.3%	△
7 固定比率	固定資産 / 自己資金	97.0%	99.2%	97.8%	97.4%	▼
8 固定長期適合率	固定資産 / 自己資金+固定負債	89.6%	92.0%	88.8%	88.2%	▼
9 流動比率	流動資産 / 流動負債	413.7%	255.7%	465.8%	453.1%	△
10 総負債比率	総負債 / 総資産	10.6%	11.8%	13.0%	12.4%	▼
11 負債比率	総負債 / 自己資金	11.9%	13.4%	14.9%	14.2%	▼
12 前受金保有率	現金預金 / 前受金	578.3%	548.1%	683.3%	759.5%	△

[注記] (1). 財務比率の評価は、個々の学校法人に適用する場合に内部事情等を個別に判断しなければ一概にその良否をいえないが、財務比率の高低の評価を以下のとおりとしています。

(私学事業団：今日の私学財政参照) [△：高い値が良い ▼：低い値が良い —：どちらともいえない]

(2). 総資金=負債+基本金+消費収支差額、自己資金=基本金+消費収支差額、運用資産=その他の固定資産+流動資産、外部資産=総負債-(退職給与引当金+前受金)

資金収支計算書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

(単位:千円)

収入の部	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,397,839	2,403,122	△ 5,283
手数料収入	71,907	72,384	△ 477
寄付金収入	10,000	10,512	△ 512
補助金収入	1,004,744	1,005,014	△ 270
資産運用収入	79,550	80,626	△ 1,076
事業収入	68,558	70,102	△ 1,544
雑収入	96,083	102,928	△ 6,845
前受金収入	345,150	355,526	△ 10,376
その他の収入	369,472	700,294	△ 330,822
資金収入調整勘定	△ 534,250	△ 543,411	9,161
前年度繰越支払資金	2,549,893	2,549,893	0
収入の部合計	6,458,946	6,806,990	△ 348,044
支出の部	予算	決算	差異
人件費支出	2,231,168	2,226,260	4,908
教育研究経費支出	834,312	799,920	34,392
管理経費支出	321,906	312,372	9,534
借入金等利息支出	8,578	8,576	2
借入金等返済支出	105,540	105,540	0
施設関係支出	207,738	207,738	0
設備関係支出	39,873	38,247	1,626
資産運用支出	100,000	404,446	△ 304,446
その他の支出	41,411	41,359	52
[予備費]	20,000	20,000	0
資金支出調整勘定	△ 31,281	△ 37,597	6,316
次年度繰越支払資金	2,579,701	2,700,129	△ 120,428
支出の部合計	6,458,946	6,806,990	△ 348,044

翌年度に入学する学生生徒等から受入れた授業料・入学金等。

長期・短期の貸付金の回収額。特定の目的のために積立たれた預金(退職・減価償却)等を取り崩した額など。

土地、建物、構築物等を取得するための支出。

教育研究用の機器備品、その他の機器備品、図書などを取得するための支出。

支出として計上したものの、未払いとなっているものや、前払金支払いとして前年度までに支払っている経費を差引くことにより、資金の支出額を調整すること。



【語句説明】：資金収支計算書にのみ表れる主な科目

【前受金収入】

翌年度分の学生生徒等納付金が当年度に納入された収入をいいます。

【資金調整勘定(資金収入調整勘定、資金支出調整勘定)】

資金収入調整勘定とは当年度の諸活動に対する収入で、前年度以前に資金の収入になったもの、及び当年度の諸活動に対する収入で、翌年度以降に資金が受け入れられるものです。資金支出調整勘定は、当会計年度の諸活動に対応する支出で前会計年度以前において支払資金の支出となったもの、および当会計年度の諸活動に対応する支出で翌会計年度以後において支払資金の支出となるべきものをいいます。

消費収支計算書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

(単位:千円)

収入の部	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	2,397,839	2,403,123	△ 5,284
手数料	71,907	72,384	△ 477
寄付金	10,000	22,121	△ 12,121
補助金	1,004,744	1,005,014	△ 270
資産運用収入	79,550	80,626	△ 1,076
資産売却差額	52,590	52,590	0
事業収入	68,558	70,102	△ 1,544
雑収入	99,603	106,512	△ 6,909
帰属収入合計	3,784,791	3,812,472	△ 27,681
基本金組入額合計	△ 353,930	△ 353,504	△ 426
消費収入の部合計	3,430,861	3,458,968	△ 28,107
支出の部	予算	決算	差異
人件費	2,221,633	2,216,725	4,908
教育研究経費	1,144,812	1,110,517	34,295
管理経費	375,906	365,943	9,963
借入金等利息	8,578	8,576	2
資産処分差額	5,646	5,645	1
徴収不能引当金繰入額	295	294	1
(5,941)			
[予備費]	14,059	14,059	0
消費支出合計	3,770,929	3,707,700	63,229
当年度消費支出超過額	340,068	248,732	91,336
前年度繰越消費支出超過額	5,251,818	5,251,818	0
基本金取崩額	0	21,192	21,192
翌年度繰越消費支出超過額	5,591,886	5,479,358	112,528

現金寄付及び書籍・絵画等の現物寄付を含む寄付。

帰属収入とは、学校法人の負債にならない収入。

消費収入とは、帰属収入から基本金を組み入れた後の額。

消費支出とは、学校法人が諸活動を行うために支出する費用で、消費収入により賄われる。

消費収入から消費支出を差し引いた金額が消費収支差額(収入超過または支出超過で表示)。

※()の数値は、予備費20,000千円の内、使用した金額を示しています。



【語句説明】：資金収支及び消費収支計算書に共通して表れる主な科目

【学生生徒等納付金】

在学を条件とし、又は入学の条件として、所定の額を義務的にかつ一律に納付すべきものです。授業料、施設設備費、入学金等の学生・生徒から納入されるもので、収入のうちで最も大きな割合を占めます。

【手数料】

入学試験、転入・試験のために徴収する収入です。具体的には、入学検定料、試験料、証明書発行手数料をいいます。

【補助金】

国・地方公共団体及びこれに準ずる機関から交付される補助金をいいます。

【資産運用収入】

預貯金や有価証券等の利息・配当金収入及び所有する施設の賃貸などの収入をいいます。

【事業収入】

食堂、売店、寄宿舎等の補助活動収入、外部から委託を受けて行う受託事業収入などをいいます。

【雑収入】

学校法人に帰属する上記の各収入以外の収入をいいます。これには、私学事業団等から退職金資金その他の交付金を受けたときの収入も含まれます。

【人件費】

専任教職員、非常勤講師などに支給する本俸・期末手当・その他の手当・所定福利費、理事及び監事に支払う報酬などをいいます。

【教育研究経費】

教育研究のために支出する経費をいいます。

【管理経費】

総務・人事・経理業務や学生募集のための支出などで、教育研究以外の経費をいいます。



【語句説明】：消費収支計算書にのみ表れる主な科目

【帰属収入】

学校法人のすべての収入のうち、負債とにならない収入(学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金など)をいいます。

【消費収入】

消費収入は、消費支出に充当できる収入のことで、帰属収入から基本金組入額を控除して算出されるものです。

【基本金組入額】

学校法人が教育研究活動を行っていくためには、校地・校舎・機器備品・図書・預現金などの資産を保有し、これを永続的に維持する必要があります。学校会計では、当該年度にこれらの資産の取得に充てた金額を基本金へ組入れる仕組みとなっています。この基本金の対象は、「学校法人会計基準」において、次の4項目に分類されています。

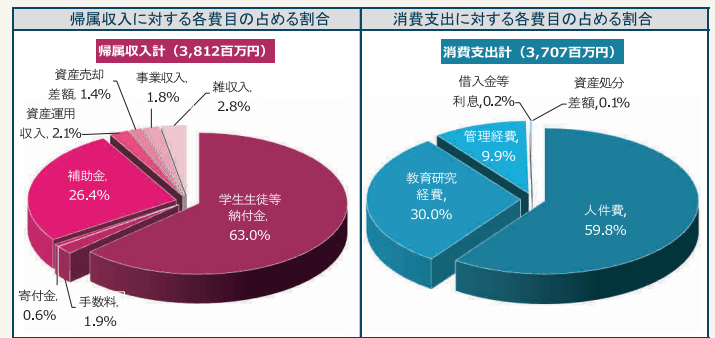
- 【第1号基本金】：設立当初に取得した固定資産、並びに設立後新たな学校の設置、学部学科の増設、定員や実員の拡大による規模の拡大及び教育の充実向上のために取得した固定資産の額。
- 【第2号基本金】：第1号の資産を将来取得するために充てる金銭その他の資産の額。
- 【第3号基本金】：基金として恒続的に保持し、かつ運用する金銭その他の資産の額。
- 【第4号基本金】：恒常的に保持すべき資金として別に文部科学大臣の定める額。

【資産売却差額・資産処分差額】

不動産や有価証券などを売却した際の売却額と帳簿価額の差額をいいます。資産売却額が帳簿価額を超えた場合を資産売却差額、資産の帳簿残高が、当該資産の売却額を超えた場合を資産処分差額といいます。

【消費支出】

消費支出は、人件費、教育研究経費、管理経費、借入金利息などの当該年度に発生した費用です。消費支出のほかに、退職給付引当金繰入額や減価償却額が計上されています。



企業会計と学校法人会計の違い

企業会計では、会計によって収益と費用を正しくとらえて営業年度の正しい損益を計算し、併せて企業の財政状態、すなわち資産・負債及び資本の状態を知ることによって、より収益力を高め財政的安全性を図ることを目的としています。

一方、学校法人は、教育研究活動により社会に有為な人材を育成することを目的とし、その収入の多くは学生生徒等の納付金や国・地方公共団体からの補助金で構成されている極めて公共性の高い公益法人であり、企業のように収益の獲得を目的とすることはできません。したがって、学校法人の会計には、損益の計算という目的はなく、また、一般の企業に比べてより一層の永続性が望まれます。

以上のことから、学校法人会計の目的は、収支の均衡の状況と財政の状態を正しくとらえ、法人の永続的發展に役立てようとすることにあり、その目的を達成するため、計算書類(資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表)等を作成することになっています。

- **資金収支計算書とは**・・・当該会計年度に行った諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容を明らかにし、支払資金(現金及び預貯金)の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。
- **消費収支計算書とは**・・・当該会計年度の消費収入と消費支出の内容及び均衡の状態を明らかにし、学校法人の経営状況を表すものです。
- **貸借対照表とは**・・・決算日(年度末)における資産、負債、基本金及び収支差額を明らかにし、学校法人の財政状態を表すものです。

学校法人九州国際大学

- 大学 法学部 法律学科 / 経済学部 経済学科・経営学科 / 国際関係学部 国際関係学科
- 付属高等学校 難関クラス / S特進クラス / 特進クラス / 準特進クラス / 進学クラス / トップクラス / トッパンクラス / 国際コミュニケーションクラス
- 付属中学校
- 大学院 法学研究科・企業政策研究科

学園広報誌 九国の扉 ～キョウトビ～
 vol.13 / 2015
 発行日 / 2015年9月30日
 ■ 発行 学校法人九州国際大学
 ■ 学園広報誌作成委員会
 〒805-8513 北九州市八幡東区平野2-5-1
 TEL. 093-671-8900 FAX. 093-671-9032

University



全員に記念品プレゼント!

オープンキャンパス <事前申込必要>

- ① 平成27年10月12日(月・祝) 14:30~17:00
- ② 平成28年3月5日(土) 14:30~16:00

総合ガイダンス / 各学部進路相談 / キャンパスツアー
 保護者向け説明会 / 入試説明会 / 個別相談 など

お申込みは / TEL. 093-671-8916 FAX. 093-671-8995
 Email. admission@kiu.ac.jp

盛り上がっていきこう!

大学祭「橋祭」

今年のテーマは「魂～INSPIRE A SOUL～」
 平成27年11月14日(土)・15日(日)

High School



入試ワンポイントアドバイスも実施!

オープンスクール

平成27年11月7日(土) 10:00~12:30
 (12:30以降のプログラムは自由参加)

学校説明&保護者ガイダンス / ステージイベント
 入試ワンポイントアドバイス など
 無料送迎バス / JR枝光駅発 8:30から20分毎に運行

お申込みは / TEL. 093-671-8443 FAX. 093-671-9028
 Email. 959h@kif.ed.jp

Junior High School



小学5・6年生および保護者対象

九国プレ2015・入試説明会

平成27年10月18日(日) 10:00~12:00
 無料送迎バス / JR枝光駅発 9:00、9:25

授業を見てみよう!

秋の学校見学ツアー

平成27年11月14日(土) 10:00~12:00

お申込みは / TEL. 093-671-9001 FAX. 093-671-8998
 Email. 959j@kif.ed.jp